
きみはいない

水色ペンキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

きみはいない

【Nコード】

N1444F

【作者名】

水色ペンキ

【あらすじ】

きみとぼくのふれあいはい、いつもやわらかくて、ココチよくて、ちよつとだけ、はずかしかった。でも、そんなきみも、もう、いない。詩かも。詩じゃないかも。詩ってなんだろう。たぶん詩じゃない。

きみは どこへ いってしまったの

白くて やわらかくて まるくふとつた きみのからだ

もう ボクの手のとどくところには なくなってしまった

なくなって しまったんだ

きみと はじめて あった日が つい こないだのように おもえるよ

すこし あれた きみのはだも

さわると ちょっと あたたかかくて

ぼくが きみの手を ひっぱると

きみは バレリーナのように くるくるまわって

いとぐるまみたいに からだを ゆらして

ぼくらのへやには コトコトいう音が ひびきわたった

それはまるで 風にまかれる さくらふぶき

それはまるで 風にまう てんによのコロモ

そんなきみが いなくなってしまうなんて

いなくなつて しまうなんて

きみが まわるたびに ちょっとやせるのを しっていた

きみのゆれる かたのうごきが だんだん大きくなるのを しつて
いた

だけどぼくは いつかそれが きみをコロすのを しつていながら

きみの 手を ひいていたんだ

きみの さいごの つかいてんが はじまると

きみの しろいからだは とつぜん どろのようになつて

さしのべた 手を いっぱいに のばしたところで

まわるのを やめた

ぼくは その手を ひきちぎったんだ

きみの ちゃいろうになった からだから

そして ぼくは うごかなくなった きみを

きみのステージから らんぼうに おろした

ぼくは ひどいやつだ

ひどいやつさ ぼくは

だって ぼくが ほしかったのは

きみの かわり だったんだもの

かわりがいれば きみは もう いらなかつた

やせほそった きみは たよりなくて

ぼくは そんなきみを もう あいせなかつた

？きみは しらなかったらう？

でもね きみのかわりは いなかった

いなかったんだよ

かわりが いないことを かなしむ ぼくに

きみは いったね その からっぽの からだで

かえの トイレットペーパーは じょうびして おくべきだと

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1444f/>

きみはいない

2010年11月3日13時59分発行